

# 布教推進期間の取り組み

十月、十一月は布教推進期間です。

現在、立教百五十年のお年柄を目前にし、全教あげて、「この道のおかげの自覚をもとに、信心生活を進める」ことに取り組んでいます。「信心しておかげを受けて、難儀な人を助ける身にならせてもらうがよい。神の心になって、受けたおかげを人に話して真の道を伝えるのが、神へのお礼である。それが神のお喜びとなる」とみ教えくださっているように、この道のありがたいことを、家族や周囲の人々に伝えていくことは、神様への一番のお礼であり、神様にお喜びいただく信心実践となります。

このたび、布教推進期間を迎えるに当たり、あらためてこの道のおかげの自覚に立ち、神様にお喜びいただく信心実践として、身近な人々に信心を伝えることに努めてまいりたいと存じます。

今年開催された輔教研修会での班別懇談で話し合われた内容から、「布教」（名広め、道伝え、お導き）にかかわっての取り組みを紹介します。

## 助かってほしいという気持ち

行き詰まってしまふ。「人が助かりさえすればよい」という思いを大切にしている。

●金光教を広めるといふ布教活動では

●相手に伝えようとする時、気長に辛

抱強く取り組むことで、ご時節が頂ける。無駄に見えることも積み重ねが大切だ。

●ご縁を大切にし、その人の助かりを祈り、お導きさせてくださいと願っていれば、必ずきっかけができてくる。自分の体験を話してお導きしている。

## 人の助かりを祈る

●職場の人たちの難儀が助かるように、お結界でお届けしている。

●友達や近所の人から病気や悩みを打ち明けられた時、その人に代わってお願いしている。

●相手のことを祈っていると、相手に自分に近づいてくるような気がする。

●末期ガンの人の回復を願い、手術は成功したが、のど元過ぎればのありさまで、信心にいざなうのは難しい。

### 本部、教会に誘う

●人に相談を受けた時、教会の存在（だれが行ってもよい、何を願ってもよい、教えをしてもよめる、祈ってくださる）を伝えることに努めている。



●教会の先生が、心から接してご指導くださるのが魅力である。未信奉者をお導きし、あとは教会長にお任せしている。

●ご本部にお誘いしたら感激され、「もう一度お参りしたい」と言ってくれた。

●楽しいイベントとして、春秋の本部大祭に友人や知人を誘っている。何かを感じてくれたらよい。

### 信心の喜びを伝える

●入信の時や、おかげを頂いたことを振り返り、自分史を作った。信心のありがたさがはつきりさせられ、人にも伝えたい気持ちになった。

●これまでのことを振り返ると、無駄なことは何もないと感じる。順風満帆ではなかったが、その苦労や体験が、人にお道を伝えたり、お手引きに役立っている。

●信心していると、自分の醜さが分かり、人の話が聞け、嫌いな人を祈るこ



とができるようになった。信心して変わった自分を見てもらい、その喜びを周りの人にも教えてあげたい。

●自分がおかげを頂くことが、信心を伝える出発点になる。近所の人が問題を持ってきた時、信心の話をさせていただけ、腹が立たなくなったと感

謝された。信心の話をする、自身  
の信心が問われ、いっそうおかげ  
頂きたいという気持ちになる。

## 生き方で伝える

●信心が伝わるのは、言葉ではなく生  
き方である。自分の信心をしつかりさ  
せていただくことを心がけていると、  
こちらが誘わなくても、いっしょに教  
会に参拝したいと申し出た人もあつ



た。

●自分に不都合なことでも、神様がな  
されたこととして対処している。そう  
した自分を見てもらうことで、金光教  
の信心に一目置いてくださっている。  
●日々の生活のなかで、世話になるす  
べてにお礼を申している。

●夫婦そろって元気に参拝し、家族ぐ  
るみの信心のおかげを頂いている。近  
所の人からうらやましがられ、話しか  
けてこられる。

## 教えを語る

●一生懸命伝えても、相手になかなか  
伝わりにくい。教義を伝えるのは難し  
い。

●「神様は本当にいるのか」と質問さ  
れ、生かされて生きているということ  
や、お世話になっている人や物にお礼  
の心を持つよう心がけていることを話  
している。

●近所の人たちとのコミュニケーション  
を大切にし、その人たちに合ったお



話をさせてもらっている。

●「人はみな神のいとし子」というみ  
教えは、他の信仰を持っている人にも  
通じる。心の病を抱えた人が、このみ  
教えに安らぎを感じてくれている。

## 家庭集会、地区集会

●教会から遠いので、地域の信者さん  
同士で集まり、ご祈念会を始めた。周  
りに住む人も参加するようになり、信  
心話もさせてもらっている。

●月に一回、個人宅や集会所で地区集会を行っており、七、八人の未信奉者が来るようになった。地域四十戸のみんなに来てもらいたいとの願いを持っている

●宅祭を行うことで親族が集まり、信心継承につながっている。

●未信奉者を中心とした集会を開き、二か月に一度、教会の先生に来ていただいて話をしてもらっている。お手引きにつながっている。

### 掲示板、布教材の活用

●自宅の玄関に掲示板を掲げ、み教えを広めている。

●『天地は語る』のみ教えや、先代教会長のみ教えをトイレに張っている。

●ラジオ放送「金光教の時間」を録音して友人に配り、喜ばれている。

●大手術を受けた友人にぜひ助かってほしいと思い、「人が助からなければ、神も助からないとおっしゃる神様だ」と伝え、『天地は語る』や拝詞集

をもとにお話しさせていただいた。その方は、愚痴不足を言わずに感謝する生活を心がけ、病気が再発することもなくおかげを頂いている。

### ポスティング、バザー、社会活動

●教会で毎年、チャリティーバザーを開いている。商品に金光教のパンフレットなどを添え、「いい宗教ですね」と理解が広がっている。ポスティングや、教会を会場にしたカルチャー教室、地域の清掃なども行っている。

●地域の清掃、病院の花壇の手入れ、老人ホーム慰問などがお導きにつながっている。

### その他の工夫

●信奉者は、聞き上手だが話す（伝える）ことが上手ではな

い。教会で話し方講座を開いている。  
●話すことが苦手だったが、集会などに参加してお育てを頂いた。  
●手芸教室を開いているが、そこで金光教の話をしたり、ご本部のリーフレットや自作の冊子を配っている。  
●メールのみ教えを添えるようにしている。

